

る市吏員の唾棄すべき收賄懸獄の如き、算へれば文明國民たるの體面を毀損するの甚しきものにして、之を廢せざる政界及び思想界の年中行事の正として一笑に附するは餘りに事重大にして、今に於て政界の徹底的淨化と文教の根本的革新を斷行するにあらざれば、遂に國家滅亡の端は茲に發するに至らむ事を深く憂慮するものなり。

我財界の現況は今や全く混沌状態を呈し、國家の歲入は甚しく均衡を失して、歲入の不足は逐年増加し、前古未聞の龐大豫算たる昭和八年度豫算は歲入の赤字十億圓に垂んとし、而も之を補填するに

全部公債委辦を以てせんとするに至つては、吾人は我大藏當局の無能無責任なるに一瞥を叱せざるを得ざるなり。況んや豫算審議の重大責任を有する五百の議員中、一人として其非を叱りし政府に肉薄したる者なくして、此龐大豫算を其體存にするに至つては、彼等は自ら其附與せられたる貴重な豫算審議權を放棄したるものにして、議員として國民を代表するの資格なく、世に議會無用論の益々喧傳せらるゝに至れるは實に痛嘆に堪へざる所なり。

昭和八年度豫算龐大赤字中、眞に緊急已むを得ざるものにして、萬難を拂ひて協賛せざるべからずと認めらるゝは、滿洲事件及之に關連する陸海軍の兵器充備費の約四億圓にして、殘餘の五億圓は非常時局に處するの雅量に乏しき各省大臣の傳統的分捕主義の性根に過ぎずして、農村救済費以外の經費は當然零餘を加ふべきものなるに、大藏當局を始め議會が其充斷に出でざりしは政黨政治の衰りたる惡弊にして、吾人は天下に向つて其非を呼號せんとするものなり。

斯の如くして一旦曙光を認め得たる我財界の前途は忽然として暗雲低迷の觀を呈して、民心の不安、動搖を激成し國民生活の安定を缺き、國內到る處悲鳴怨嗟の聲を聞かざる所なしとす。

現今の我財界の窮狀を救済せむと欲せば歲入出の均衡を計るを先決問題とす。之が爲めには徹底的に行政及稅制の整理を斷行するにありとす。

由來我邦の官制は歴代内閣が人の爲めに官を設くるの惡弊を踏襲し來りたる結果、諸官廳は中央地方の別なく必要以上に膨大し、必然整理の餘地あるに拘らず之に一大斧鉞を加ふるの英斷に乏しきのみならず、却て諸種の口實を構へ不急の官制を制定して、黨人の黨官熱を充たさんとするに至つては其弊狀實に驚くの外なしと打追加の昭和八年度政府豫算に依れば、政府が地方廳及民間の各種事業に對し年々附與するある補助金は總額三億三千萬圓、又各種事業繼續費は總額五億二千萬圓にして、此巨額の國費は政黨政治家が財閥と利權の交換を條件とし、或は選舉區民の歡心を買ふが爲め好評と云て悪用濫費せられ、又帝都の中央に構へて世界無双を以て彼等の誇りとす。國富民力に不相應なる新設官廳並、諸官廳會等の家畜なる大層高閣の建築等、非常時局に於ては全不不急の土木工事業に充當浪費せらるるものにして、昔時織田豊臣及徳川等が其居城の標幟に莫大の國格と大力をを授け、國民を塗炭の苦しみで陥れ、其怨みを買ひたるを何等擇む所なし。斯る政府の放縱なる

國費の濫用を黙過するに於ては、政府及地方自治團體の專横暴態は益々募りて苛酷請求を以て、國民は塗炭の苦しみで現る。是れ能はざるは實に暗易きの理なり。然り而して政黨政治家の權を國家の浮沈安危に關する國防を自己に生産的施設と稱し、國庫の窮乏を軍費の削減に依るて補填せむと云ふの強硬なる政策を弄じ、政治的野心を有する我陸軍の巨頭と氣脈を通じ、日露戰役以來我陸軍が明治天皇の御傳業を奉承して苦心慘澹を辛みて建設し得たる我陸軍に借氣もなく、大斧鉞を加へて前後退回に其約八師團に相當する兵力を縮小し、又過般の倫敦會議に於て無氣力なる我海軍の巨頭に強壓を加へて補助艦艇の不法不利なる比率を英米と誓約して、我國防上千慮式ふべからざる大缺陷を招來せる等、是れ皆眼用政黨あつて國家なき政黨政治家が國防を不黨利黨略の犠牲に供したるものにして、當時忠勇立節の帝國軍人の激憤憤怒の標的となりしを、今當吾人の船中、其怨むる所なりとす。

對外國關係を考ふるに、吾人吾人の心腹を委かざるものあり、即、歴代内閣の因襲なる軟弱、退嬰外交は、大勢、順應國際協調主義を以て終始し爲めに、巴里和會會議に於て列國慶祝の喜に入ら

公平等案に修改して以來、或は青島の無條件返付となり、或は米國の脅威に守へずして、台マツチ島に於ける無線通信所及貯炭所の讓與となり、或は九公國條約の締結に依り滿洲に於ける特權の喪失となり、或は米國の壓迫に依り日英同盟の破壞となり、或は倫敦會議に於ける局外的海軍協定の締結となり、滿洲事務變動當時外務當局の錯弊に依り、圖らずも國際聯盟及米國の不當干涉を招來し、而も聯盟に於ける窮境を當時世も爲め、餘餘の策として、聯盟の滿洲問題認識不足を理由に自ら進んで調査委員の派遣を提案して、反つて、禍根を後日に胎じ、遂に我代表引揚の主なる動機を醸成したるが如き、或は米國の強硬の一言に辭易し、滿洲政變の爲め、起交戰中の關東軍に我戰史上に前代未聞の敵前退却を強要して、我皇軍の光輝ある歴史に千載の汚名を烙せらざるを願はしむるが如き、外交上の失態は是亦擧げて數ふに遑あばざるなり。

滿洲の荒野に濃烈たる寒氣を感ずる。我皇軍の犧牲を捧げ、東洋平和の爲め、將又日本民族永存の爲め、健闘奮闘中にして、此の時、方多年暴君の虐政に苦められたる三千萬の滿洲民族は其程程を脱せんが爲め、獨立の旗幟を翻し、軍國復興の爲め